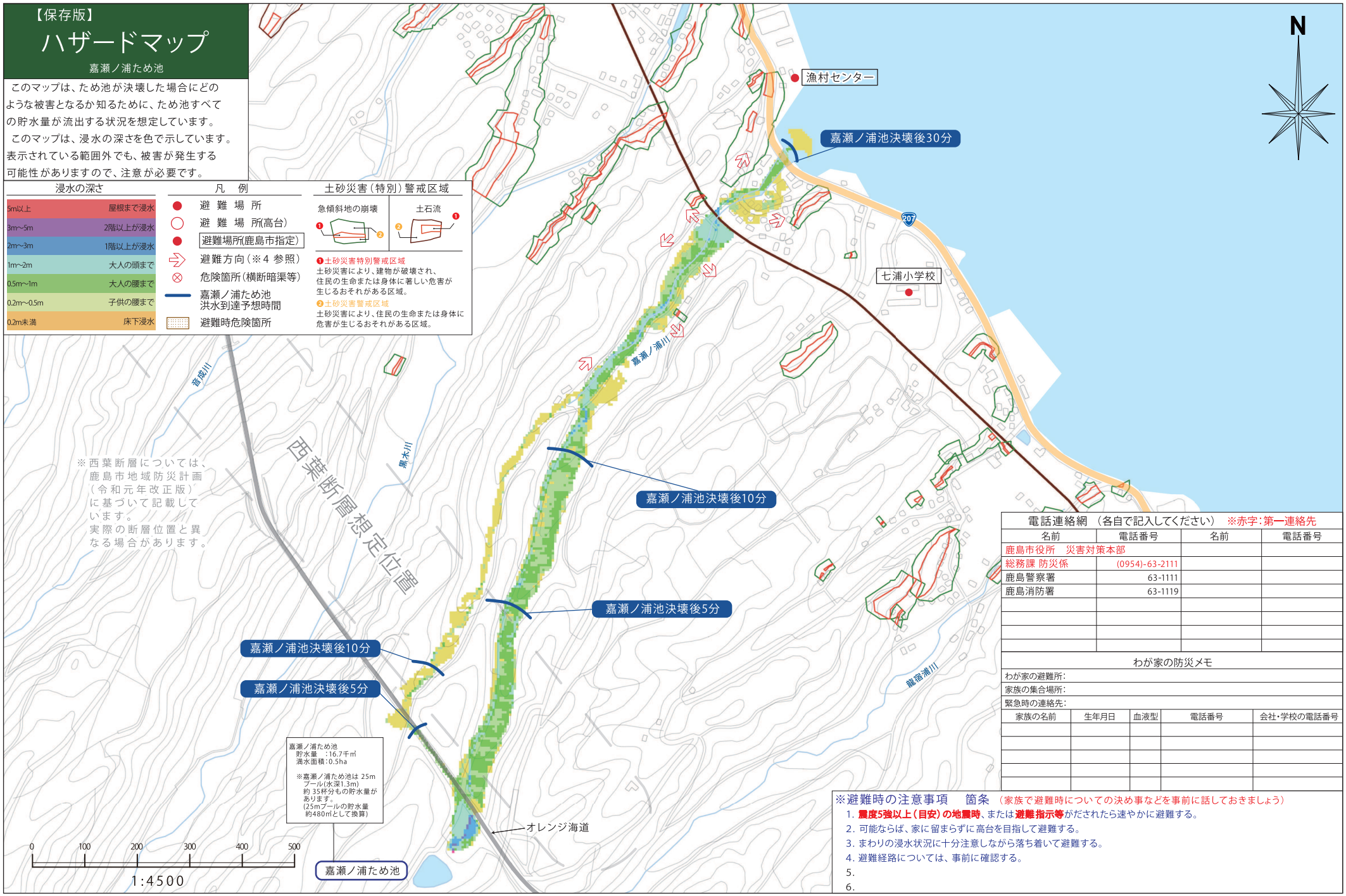
【保存版】

ハザードマップ

嘉瀬ノ浦ため池

このマップは、ため池が決壊した場合にどのような被害となるか知るために、ため池すべての貯水量が流出する状況を想定しています。
このマップは、浸水の深さを色で示しています。表示されている範囲外でも、被害が発生する可能性がありますので、注意が必要です。



浸水の深さ

5m以上	屋根まで浸水
3m～5m	2階以上が浸水
2m～3m	1階以上が浸水
1m～2m	大人の頭まで
0.5m～1m	大人の腰まで
0.2m～0.5m	子供の腰まで
0.2m未満	床下浸水

凡　例

- 避　難　場　所
- 避　難　場　所(高台)
- 避難場所(鹿島市指定)
- 避難方向（※4 参照）
- 危険箇所（横断暗渠等）
- 嘉瀬ノ浦ため池 洪水到達予想時間
- 避難時危険箇所

土砂災害（特別）警戒区域

急傾斜地の崩壊　土石流

❶土砂災害特別警戒区域
土砂災害により、建物が破壊され、住民の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域。

❷土砂災害警戒区域
土砂災害により、住民の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域。

電話連絡網　（各自で記入してください）　※赤字：第一連絡先

名前	電話番号	名前	電話番号
鹿島市役所　災害対策本部			
総務課 防災係	(0954)-63-2111		
鹿島警察署	63-1111		
鹿島消防署	63-1119		

わが家の防災メモ

わが家の避難所：
家族の集合場所：
緊急時の連絡先：

家族の名前	生年月日	血液型	電話番号	会社・学校の電話番号

※避難時の注意事項　箇条　（家族で避難時についての決め事などを事前に話しておきましょう）

1. **震度5強以上（目安）の地震時**、または**避難指示等**がだされたら速やかに避難する。
2. 可能ならば、家に留まらずに高台を目指して避難する。
3. まわりの浸水状況に十分注意しながら落ち着いて避難する。
4. 避難経路については、事前に確認する。
5.
6.

測量法に基づく国土地理院長承認（使用）R 3JHs 125

鹿島市
ため池ハザードマップ
嘉瀬ノ浦ため池

【保存版】

●ため池ハザードマップとは、ため池が決壊した場合の被害想定範囲を地図化したものです。ため池が決壊した場合に、被害を最小限に留めることを目的として作成しています。

嘉瀬ノ浦ため池全景

嘉瀬ノ浦ため池下流域

令和３年６月

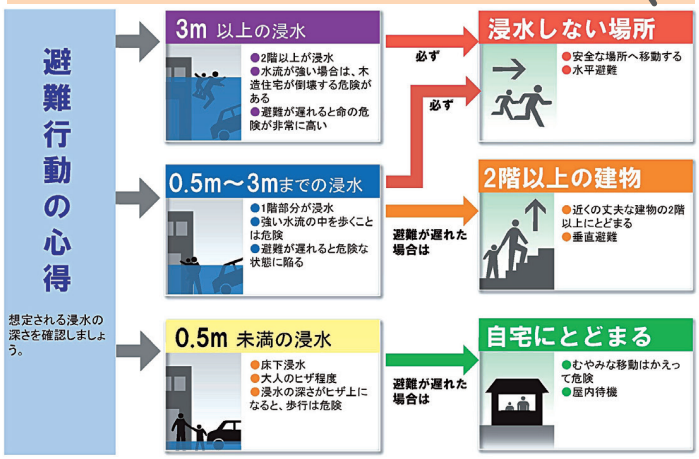
鹿島市ため池ハザードマップに関するお問い合わせ

鹿島市役所（代）　Tel　0954-63-2111
Fax　0954-63-2129

農林水産課農山漁村係　Tel　0954-63-3413
E-Mail　norin@city.saga-kashima.lg.jp

災害対策本部（災害時のみ）Tel　0954-63-2111

■避難指示等がだされたら速やかに避難



～早期避難のススメ～

避難は、可能な限り浸水被害が発生する前に行ってください。ため池の決壊後の避難は危険ですので、注意してください

●動きやすい服装で。
●荷物は最小限。
●２人以上での避難。

●足元に注意。

●避難は徒歩で。

●指示に従いましょう。

地震のあと

被災状況（防災無線の故障、広報車の通行不可、停電等）により、通常の手段を通じた情報の入手が困難になります。そのことを前提と考え、憶測やデマに惑わされず、冷静に事態に対応しましょう。

災害発生時の避難情報入手における注意点

大雨のとき

大雨時は家屋内にいる場合が多く、防災無線・広報車の呼びかけが雨の音で聞こえにくい場合があります。テレビやラジオ、インターネットなどから、自主的な情報収集を心がけましょう。

※このハザードマップは、大規模地震により、満水状態のため池の堤体が、一気に基部まで破損し、貯留水が下流へ流出した場合を想定しています。

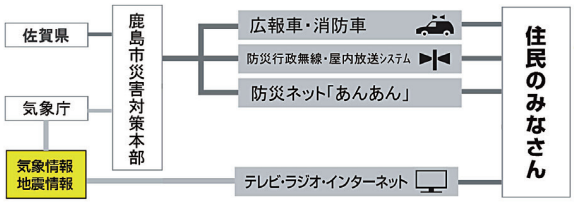
高台に避難してください！

■市からの避難情報に注意しよう

● 行動を促す避難情報には、緊急度に応じて３種類あります。

警戒レベル	避難情報等	避難行動等
レベル５	緊急安全確保	命の危険　ただちに安全確保
レベル４	避難指示	危険な場所から全員避難 →避難指示が発令されたら必ず避難
レベル３	高齢者等避難	危険な場所から高齢者等は避難 →高齢者等以外の人も、必要に応じ普段の行動を見合わせたり、避難の準備をしたり、自主的に避難

● 避難情報は、下図のような経路で住民のみなさんに伝達されます。



地域防災力の向上に向けて

地震が必ず発生します。もしかすると、明日発生するかもしれません。この予想される大規模な被害に対応するためには、自助・共助・公助の取り組みとともに、地域の防災力を向上させていくことが重要です。

「災害を知る」「まちを知る」「人を知る」

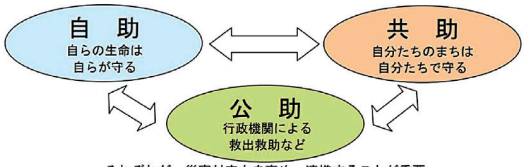
■災害をイメージして、日常から自分で対策を考えることが大切です。

1. **災害を知る**
   「どれくらいの規模で、どのような災害の発生が予想されるか」
2. **まちを知る**
   「災害時に安全な場所、危険な場所はどこにあるのか」
   「何かあった場合にお世話になる場所や施設はどこにあるのか」
3. **ひとを知る**
   「いざという時に頼りになる人はどこにいるのか」
   「近所に手助けが必要な人はいないか」

「自助」「共助」「公助」

■災害の被害を軽減するためには、「自助・共助・公助」連携が不可欠です。

1. **自助**
   「自らの安全は、自らが守る」これが、防災の基本です。
2. **共助**
   近所の人たちと協力して、お互いに助け合うこと。
3. **公助**
   市役所・警察・消防といった行政機関が取り組むこと。



それぞれが、災害対応力を高め、連携することが重要

地域防災力を高めることが、災害に強い地域を作る事につながり、一人でも多くの命を救うことにつながります。